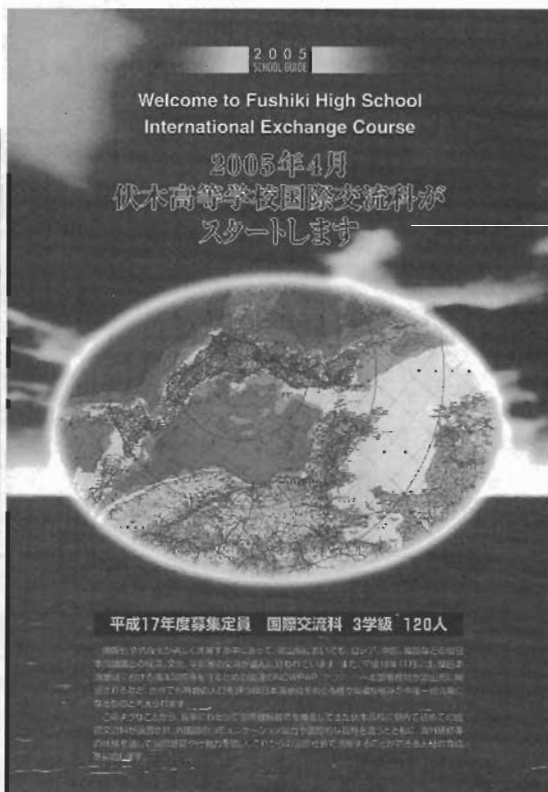




如意ヶ丘

〈発行〉平成16年12月20日

如意ヶ丘国際教育基金設立!



ごあいさつ



同窓会長
林 秀 治

同窓会会員の皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。

母校の富山県立伏木高等学校は、昭和2年に前身の伏木町立伏木商業学校として発足以来、いよいよ平成19年には80年の節目を迎えることとなりました。

この節目の大事なとき、8月の同窓会総会におきまして、はからずも会長に選ばれその責任の重大さに緊張致しております。伝統ある如意ヶ丘同窓会のために微力を尽くす覚悟でありますので、同窓生各位の絶大なるご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

また過日には、9月7日、9月27日と役員会を開き、掲載の副会長ほかを選任し委嘱いたしました。同窓会並びに母校発展のため、私とともどもよろしくお願い致します。

さて、母校伏木高校は、県下の生徒減少に伴う高校再編成の一環として、平成17年から国際交流

科3学級の高校になることとなりました。これは国際貿易港伏木港という立地を生かした高等学校として、県内外の逸材を集め国際化社会の次代を担う俊才を教育する高校となることでもあります。

かねてご案内の通り、創立80周年の記念事業につきまして学校当局と検討しているところでありますが、さしあたって第一弾として今回の学校改編ともからんだ「如意ヶ丘国際教育基金」を創設してほしいとの意向を伺いました。これは母校の後輩の国際交流に関する教育活動を支援する目的で設置するもので、協議を重ね10月29日の役員会で承認致したものであります。早速、会員・地域企業などに募金方のお願いに奔走しており、めざましい成果をあげつつありますが、皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、同窓生の皆さまの今後のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

「国際交流科」として新たなスタート



学校長
西井 秀子

今秋、伏木高校は平成17年度から「国際交流科」3学級となることが発表されました。昭和59年に、国際コースを併設する「普通科」高校として改編されて以来21年間、幾多の有為な人材を輩出してきましたが、ついに「普通科」に終止符が打たれることとなります。同窓生の皆様には感慨深いものがあるかと存じます。

さて、新しい「国際交流科」は、伏木富山港の立地を生かして、環日本海諸国の言語と文化について学び、21世紀に生きる国際人を育成する、一段と魅力ある県立高校として歩み出すことになりました。環日本海時代を担う人材を育成するため、国際交流を通じて国際感覚を身につけ、英語に加えて全員が第2外国語(中国語・韓国語・ロシア語のいずれか)の基本的な会話力を修得することを目指しています。

今年度同窓会では、林秀治新会長が誕生し、新スタッフで精力的にご尽力いただいております。来る平成19年度の80周年記念事業の一環として、早速「国際交流科」を支援するための「国際教育基金」を設立して頂きました。本当にありがたく心強いことと感謝いたしております。基金設立の趣旨にご賛同頂きました会員の皆様は心からお礼申し上げますとともに、もうしばらくの間受け付けておりますので心ある方はよろしくお願い致します。

伏木高校は、この新たなスタートを機に飛躍するため、地元伏木中学校をはじめ近辺の中学校から一層魅力ある信頼される高校となるよう、全教職員一丸となって頑張っております。今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とします。

「如意ヶ丘国際教育基金」設立について

伏木高校(西井秀子校長)は来年度、「国際交流科」のみに学科再編し、外国語習得などを通じ、国際感覚を身に付けた人材の育成を目指す。生徒の海外研修など国際交流に関する教育活動を支援しようと、同校の同窓会は29日、「如意ヶ丘国際教育基金」を設立した。

同校は17年度から、1学年120人の「国際交流科」のみとなる。環日本海の玄関口である伏木富山港に近いという立地を生かし、国際交流に力を入れた特色ある教育活動を行う。

英語に加え、ロシア語、中国語、韓国語のいずれかを必修科目の第2外国語として選択。3年生になると、全員が選ん

だ国を訪れ、現地での交流を通じて言語や文化を学ぶ。受け入れ態勢充実などのため、現在、口、韓、中の3ヶ国の高校と友好交流協定を結ぶ準備も進めている。

この日は、同校の「如意ヶ丘同窓会」が役員会を開き、基金設立を決めた。林秀治会長は「特色ある学校づくりに役立ててほしい。生徒たちの夢や希望を後押ししたい」と話した。(北日本新聞社提供/10月30日)

※なお、「如意ヶ丘国際教育基金」につきましては、如意ヶ丘同窓会事務局(伏木高校)までお尋ね下さい。

本部総会報告

“声高らかに校歌うたう” 如意ヶ丘同窓会総会

伏木高校如意ヶ丘同窓会総会は8月14日、16時より伏木福祉会館で開催されました。

山下和夫会長が開会の挨拶、西井秀子校長が学校や生徒の近況を報告しました。議事は議長を兼務した山下会長によって進められ、新会長に(株)伏木海陸運送代表取締役社長の林秀治氏が推薦され、満場一致で承認されました。林新会長の力強い挨拶の後、議長を交替し、その後の案件について審議され承認されました。



続いての懇親会に先立って、本校生徒による空手の形、民謡と踊り、バトントワリングの演技が披露され、参加者は生徒たちの緊張感のある演技と伸びやかな歌声に惜しめない拍手が送られました。

同窓会顧問の石須さん(高岡市議)の挨拶と乾杯で始まった懇親会は、終始明るく和やかな雰囲気で行われました。最後は大先輩の山崎さんの挨拶の後、伏木商業と伏木高校の校歌を大合唱し、盛会のうちに幕を閉じました。

● 本部新役員

- 会長 林 秀治(北高8)
- 副会長 本元 千智(北高6) 戸沢 克行(伏高10)
- 高井 逸朗(伏高13) 山下 利一(伏高15)
- 牧 亨(伏高16) 嶋 安夫(伏高17)
- 神島 高志(伏高17) 山口 正志(伏高18)
- 佐野 邦明(伏高21) 宇加江 隆(伏高23)
- 小泉 哲二(伏高26) 島田 博司(伏高27)
- 数田 昭久(伏高34) 宮越 一郎(伏高40)
- 監事 山本勇喜雄(北高7) 牧野 貞夫(伏高10)
- 顧問 山下 和夫(北高3) 中尾 正(北高6)
- 横田 安弘(伏高13) 盤若 進二(伏高20)
- 石須 大雄(伏高38) 西井 秀子

H16・11月現在

● 関東支部役員

- 支部長 清水 正(伏商13)
- 副支部長 潮見喜八郎(北高11) 米田 清治(北高11)
- 林 尚武(北高12) 脇本 信廣(北高12)
- 監事 丸山 彩子(北高3) 能見 正子(北高6)
- 白川 慶子(北高12) 佐賀 享好(北高13)
- 四日 哲夫(北高15)
- 会計 北山 雅子(北高14)
- 事務局 山岸 清(北高17)
- 監査 川口 直弘(北高16)
- 顧問 根木 佐明(伏商6) 泉田 健夫(伏商10)
- 正和勝之助(伏商10)

● 関西支部役員

- 支部長 麦谷 実(伏商9)
- 副支部長 本元 憲明(北高1)
- 事務局長 高田 昌彦(北高6)
- 監事 木中 哲志(北高2)
- 秋常 陽一(北高6)
- 青木 勝栄(北高6)
- 鶴谷 正昭(北高16)
- 島田 正人(北高17)
- 会計 秋元 研三(北高1)
- 会計監査 奥 誠三(北高7)

関東支部より

関東支部長 清水 正 (伏商13回卒)

第8回総会は7月4日(日)、好天に恵まれ午後1時より千代田区のアルカディア市ヶ谷で開催され、来賓会員ら約55名が出席して親睦友好を深め、盛会でした。

会は林尚武副支部長(高12)の司会により開会、清水正支部長(商13)の歓迎の挨拶の後、山下和夫本部長より近況報告を交えた祝辞、大橋俊男教頭からは祝辞と共に、25年前に在職した当時と比較した学校の現況や男子生徒の33%である82名がサッカー部員であることなど、母校の近況が詳細に報告されました。議事は平成15年度事業報告・会計報告、同会計監査報告、つづいて平成16年度事業計画が、山岸清事務局(北17)、北山雅子会計(北14)、川口直弘監査(北16)よりそれぞれ報告と提案があり、満場一致で承認されました。

小休憩後、懇親会に移り、米田清治副支部長(北11)の開会の挨拶、正和勝之助顧問(商10)のスピーチと乾杯発声により賑やかに開宴となりました。料理を肴に杯もほどよくまわる頃、林副支部長が企画・発行人で、メルシャン(株)発行のワインの通信講座資料(2冊)と世界のぶどうとワインの歴史・ぶどうの品種、栽培、醸造を総合的にとらえた本を回覧しました。熟読してワインの特性を知り、楽しみをさらに広げ、深めることができました。

歓談の輪が広がる中、谷内浩仁先生(サッカー部監督)が日本サッカー協会の会議(お茶の水にて)終了後、当会場に出席されて、サッカー部の活動状況を詳細に報告されると共に、「伏木高校サッカー部が富山県代表となって国立競技場で関東同窓会の皆さんとぜひ再会したい」と話されると、全員が拍手喝采して激励し、大変な盛り上がりでした。

いつしか所定の時刻が大幅にすぎ、名残りも尽きぬ中、商業・伏木高校の校歌を熱唱、つづいて脇本信廣副支部長(北12)の音頭で関東支部の発展を祈念して万歳三唱、そして潮見喜八郎副支部長(北11)の会員の多幸と来年の再会を約した大締めで、別れを惜しみながら閉会となりました。

なお、総会の運営は改良を重ねてきましたが、今後も楽しい会合にすべく、努力検討していきたく思っております。来年の総会は7月3日(日)です。校歌熱唱の輪が一層大きくなっていくことを願っております。

◎今回の総会通知について(山岸清事務局担当)

平成9年3月の設立総会では約900名に総会通知を発送し、返信がなかった約540名に総会通知を中止してきましたが、今回役員会で検討し、その内、商業卒(16名)・併設中学校(11名)・北部高校卒(98名)と伏木高校20回卒までの全員(156名)、計281名と、昨年発送の336名を合計した617名に、総会通知を発送しました。返信があった344名の内訳は、出席49名・欠席245名(うち100名の方は、コメントの記載がありましたので、一覧表を作成し、出席者に配付)・宛先不明の返却は45名・死亡された方は5名・残念ながら返信がなかった方は273名でした。

なお、総会通知方法は、今後も検討していきたいと思っております。



伏木商業学校卒業生



併設中学校と高岡北部高等学校卒業生



伏木高等学校卒業生(昭和33年~37年)



伏木高等学校卒業生(昭和38年~53年)

関西支部より

関西支部事務局長 高田 昌彦 (北高6回卒)

第8回関西支部総会は心齋橋周辺の料亭「和田幸」を会場として9月11日(土)に開催されました。

故郷は遠きにありて思うもの、そして悲しく詠うもの…室生犀星の詩を引用して開会の挨拶をされた麦谷支部長、続いて来賓で新任の林秀治如意ヶ丘同窓会会長の国際交流基金を母校に立ち上げるべく熱意溢れる祝辞、そして母校の近況や生徒の活躍をお伝え下さった谷内田重次副校長、会場の支部会員一同は熱心に聞き入りました。続いて上程された議案はすべて満場一致で可決され第1部の会議は終了しました。

第2部懇親会は、3階から2階へ部屋を移動し、乾杯の前に伏木商業第4回卒業の澤田泰宏大先輩から、出席者が少ないようなので皆さん誘い合わせて支部総会を盛り上げる努力をして欲しいという旨の発言があり、その覇気に一同圧倒されました。乾杯の音頭は初めて女性軍からということで北部高校第6回卒業の上野澄枝様の発声により声高らかに「カンパニー」となり、そして活魚料理に舌鼓を打ちました。宴もたけなわの舞台では、男女を問わずカラオケで美声が飛び交う賑やかなひと時のあと、伏木商業校歌・伏木高校校歌を斉唱、続いて勝っても負けても何か当たる富山名産品争奪ジャンケン大会、その上、ご来賓の山下利一如意ヶ丘同窓会副会長から自前の賞品提供の抽選もあり、大いに盛り上がった支部総会となりました。

やがて予定時間となり、山下利一副会長の万歳三唱と本元憲明関西支部副支部長の「来年もまた元気で会いましょう」という閉会挨拶で散会(14時半)となりました。

このあと、希望者は法善寺横町近くのスナックで2次会に集い、歌い放題・飲み放題でした。



第19回 如意ヶ丘グリーン会コンペ盛大に

平成16年4月10日(土)、氷見カントリークラブにて恒例の定期大会が行われ、好天候のなか、エントリー86名ではありましたが81名のスタートとなりました。

プレー終了後、同コンペルームにて表彰式・パーティが行われ、山下和夫会長挨拶、学校側から大橋教頭の参加をいただき、「学校概要報告」の挨拶などが行われました。

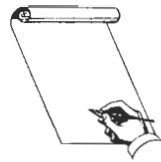
今年は特別に(同期参加者の多い卒回に)会長より特別賞があり、「伏高12回卒・伏高19回卒」が受賞しました。

●成績は次のとおりでした●

優勝	中島 隆敏(伏高9回)	ベストクロス	田中 清(北高9回)
次勝	川淵 忠雄(伏高15回)	水平賞	田中 清(北高9回)
3位	納藤 稔(伏高13回)	大波(アウト)	納藤 稔(伏高13回)
4位	佐野 隆(伏高17回)	大波(イン)	平井 登(伏高19回)
5位	青木 勲(伏高47回)	15位	般若 進二(伏高20回)
6位	山口 達雄(伏高14回)	20位	吉野 勝将(伏高商業)
7位	高井 逸朗(伏高13回)	25位	西川 宝三(伏高28回)
8位	山田 衆雄(旧職員)	30位	富岡 利治(伏高19回)
9位	上野 宏芳(伏高14回)	35位	一宮 栄暉(伏高11回)
10位	元井 聖剛(伏高14回)	40位	矢田 正弘(伏高7回)

お知らせ

如意ヶ丘グリーン会コンペは、毎年「4月第2土曜日」です。
各卒回の皆様、お互いにお誘い合わせてご参加されることを期待しています。



幸齢化のすすめ — 88歳の青春 — 澤田 泰宏 (伏商4回卒)

同窓会出席は元気で長生きの良薬。私は来年1月に満88歳を迎えるが、元気いっぱいだ。

如意ヶ丘同窓会関西支部の設立は平成9年9月28日。総会で支部長に選ばれた麦谷実氏(伏商9回)は、「会員相互の堅い絆と心の拠り所となる同窓会にするため、皆さんの支援をお願いします。私もベストを尽くしたい」と抱負を話された。(郷土情報誌「富山県人」平成9年11月号所載)また、同誌平成12年10月号にも、「世代を越えて親睦する伏木高校の同窓会の記事と共に、如意ヶ丘関西支部の懇親会では支部の結束を図るための方法などが活発に飛びかった。最年長の澤田泰宏さん(伏商4回)利波政雄さん(同7回)が若き日の思い出話を感極まる熱弁で語り、一同感激して拝聴した。また、山本(伏高8回)、竹中(同12回)、米原(同14回)さんの旧姓、河森三姉妹も参加するなど話題は尽きなかった。麦谷支部長のリードで伏木商業、伏木高校の校歌を全員で斉唱、来年の再会を誓って散会した。」(事務局報)とあり、同誌の「郷友。同窓のつどい」欄の右肩トップに掲載されている。当方の事務局の誠実な通報に感動された異例な扱いではないかと考えられる。

さて、去る9月11日(土)第8回支部総会も盛大に終了。その折、総会諸表に55名の欠席メッセージが添えられた。出席者は23名。昨年は26名、ちなみに第1回出席会員は35名であった。実はこの度、「私ももう88歳。今回をもって最後の挨拶をしたい。」と事務局に前もって申し入れていたのだが、出席するその日の朝の新聞小説の一節に、

『母校には人生の原点がある。母校への誇りは、自身の人生の誇りである。本当の人間とは、一生涯母校を愛し、同窓の友を大切にする人だ。』

とあり、感動した私は「ようし、来年も出席するよう体調を整えて努力します。皆さんも2年先輩、後輩の方々を感激し出席会員を増やしましょう。」という話になった次第です。何とぞ、よろしく願い致します。

問：他人にやればやる程自分にも増えるものは何？

答：幸せ(タイ国)

問：使えば使うほど増えるものは何？

答：知識(ネパール)

全文不備ですが、結びと致します。

〒659-0013 芦屋市岩園町 16-1



高校時代の思い出 左近 里衣 (伏高52回卒)

私の高校時代の思い出を少しだけ聞いて下さい。

私は伏木高校で野球部のマネージャーをしていました。1年生の時には38年ぶりの県大会ベスト4進出という快挙を遂げることができました。それは、私たちマネージャーが心を込めて一羽ずつ丹念に鶴を折り、5,000羽もの千羽鶴を作り上げた成果かとも感じ、感動はひとしおでした。あの感動と興奮は今でも鮮明に心に残っています。

そのような私は、学校でもとことん熱い思いを抱いている生徒でした。

私が2年生の時、やらなければならないことをやらなかったために先生に注意を受けたことがありました。本当は私自身が反省をしなくてはいけなかったのに、いわゆる「お年頃」の気持ちで何事にも敏感に感じ取ってしまう時期だったためか、今まで蓄積されてきたイライラを、その時、思わず先生にぶつけてしまいました。そして私は友人と共に号泣しながら、学年の先生方と遅くまで語り合ったことがありました。

3年生の時は、体育大会での応援合戦を何年ぶりかで復活させることができたり、また、卒業式でも、「私たちらしい」手作りの卒業式にしたいという熱い思いが叶えられたり、保護者の方々が多数出席できるよう、土曜日に卒業式が挙行されたりしました。それらは、私たちが高校生活を悔いのないようにしたいという熱い思いと、それを受け止め、叶えようと陰ながら温かくご尽力下さった先生方のおかげだと思っています。本当に感謝の心で一杯です。お世話になった先生方は、皆、私たち生徒一人ひとりに眼を配ってくださる方ばかりでした。

卒業してから、高校時代の話をする度に、友人たちから羨ましがられます。私自身、あの当時は気付かなかったけれど、改めて「遠いようで近い存在の先生」と過ごした時間を大切に思うようになりました。「左近、お前この頃様子がおかしいぞ、元気ないぞ。」といつも私たちの微妙な心の変化に気づき、気にかけて下さり、そして、私たちの真正面からぶつかってくる真剣な思いに本音でぶつかり合い、温かく受け止めて下さったりした先生方との時間を、今は本当に懐かしく、恋しく思います。

平成17年度から新しくなる伏木高校の後輩たちが、私たちが過ごしたあの母校で、私たちと同じような素晴らしい経験をしてくれば、と思っています。そして、伏木高校のさらなる飛躍を期待しています。



社会人1年目の私

加藤 志織 (伏高51回卒)

私は本校卒業後、高岡短大に進学し、今年4月に県内の会社に事務員として就職しました。当初は与えられた仕事をこなすこと、仕事を覚えることに必死でした。慣れない敬語に電話応待、接客のマナーに加え、全く知らない業界用語の嵐に朝から晩までのパソコン操作。失敗して上司に怒られ、それでも何とか当日中の仕事を終え、家に帰り家族に愚痴をこぼす。休日になれば遊べると思い平日を乗り切るが、いざ休日になってみると、日々の疲れで遊ぶ気にもなれない。次の日にはまた雑務が溜まっている職場に行かなければならない。こんな状態が続き、「もう会社に行きたくない。辞めたい。」と思ったことが何度もありました。

しかし、そんな苦しみを感じている折、会社から初任給を頂きました。学生時代のようなアルバイトの時給ではなく、社会人として、そして会社員として初めての月給でした。給料明細をいただいた時初めて、この会社の正社員として働いているんだという実感が湧きました。また、その際に社長から直々に「頑張ってるね。今後も頼むよ。」と声をかけていただき、とても嬉しくて俄然やる気が湧いてきたのも覚えています。

入社して半年が過ぎた今、私が担当させていただく取引先が出来、任せてもらえる仕事も増え毎日残業で大変ですが、充実しています。仕事が増えた分、分からない事だらけで失敗も多く辞めたいと思う時もありますが、今ここで辞めてしまったら、短大時代の夏の猛暑の中、スーツを着て靴をすり減らし歩き回った就職活動や、卒業式に皆で頑張ろうと励ましあったこと全てが水の泡になってしまうと思い、つい弱気になってしまいそうな自分を叱咤激励し、会社に通う毎日です。

社会人となり、職場でも日々の生活の中でも、周りの人の支えがあって今ここに自分が在るんだと身に染みて思いました。後輩の皆さんには、どんな状況下においても自分は一人ではないこと、周りには支えてくれる人々が大勢いることを忘れないで、充実した高校生活を送ってほしいと思います。最後に、後輩の皆さんの今後のより一層の活躍をお祈りします。



教育実習を終えて

順天堂大学 中山 良彦 (伏高53回卒)

6月に教育実習で母校伏木高校にお世話になりました。先生方の顔ぶれもすっかり変わってしまい、とても緊張しながら実習がスタートしました。始まる前の期待と大きな不安が、今ではとても大きな財産になっています。先生方の何気ないサポート、また生徒の私をサポートしてくれる姿を見るにつけ、いつのまにか学校に行き、教師として生徒とふれあうことが楽しくなりました。今までは壇上に立つ先生を椅子に座りながら見ていた私が、今度は壇上に自分が立ち、生徒の視線を一身に浴びるという人生初の体験をしました。不思議なことに、生徒一人一人の様子や体調などが良くわかり、教師と生徒は密接に繋がっているのだ、と改めて痛感しました。また、実習を通して、教師のやりがい、生徒の目線に立って物事を考える教育の難しさを実感しました。

『勉強はサッカーに結びつく』『サッカーだけやっても飯は食っていけないぞ』これらは高校時代に谷内先生から学んだことです。入学当初の私は、サッカーをするために、サッカーのためだけに伏木高校に来た、と考えていました。恩師と出会い、この言葉の意味を徐々に理解するようになりました。部活と勉強のメリハリをしっかりとつけて、ピッチのうえでは100%サッカー、机の上では100%勉強ということを常に心がけていました。この言葉が私を変えてくれました。机に向かい授業に集中すること、友達に成績で負けたくない気持ちが、緊迫した試合展開の中や、劣勢になっている状況など、サッカーのあらゆる場面で活かされてきました。また、主将を経験し、多くのことを学ぶことができました。たくさんの部員がいて、たくさんの不満や悩みを聞き、頭がパンクするくらい悩んだこともありました。しかし、先生をはじめ、同期の仲間や良き後輩に何度も助けられ、自信をもって最後までやり遂げることができました。高校生活、サッカーを通してとても大きく成長できた気がします。

伏木高校での数々の経験は、現在の私の大きな糧となっています。サッカーにおいては全国大会には出場できませんでしたが、すばらしい先生、すばらしい仲間、先輩・後輩と出会うことができ、とても充実した3年間でした。伏木高校で得た多くの経験を生かしながら、これから来るであろう社会の厳しさに打ち克ち、誰からも信頼される人間を目指したいと思います。最後に、実習でお世話になった先生方、生徒のみんな、また伏木高校への入学を許してくれた両親、ありがとうございました。これからも大きな夢に向かって頑張ります。

「人生の節目 8年振りの再会」

山下利一（伏高15回卒）

近づいてくる冬の足音をしみじみと感じる頃になりました。平成8年同期会開催後、長らくの間していなかったことを、還暦を迎えた年でもあり、この度の企画実施となりました。

“素晴らしい景観、雨晴海岸”を一望できる「磯はなび」にて先生1名、男子20名、女子14名、遠方よりの参加者も含め総勢35名となりました。

唯一参加して頂いた「35Hの担任 中村敏之先生」はことさらお元気で、参加者にとって大変な感激と喜びを与えていただきました。

「33H 尾崎定直先生、34H 藤松敏雄先生」そして同期にいたっては、145名中10名の物故者と多いことに驚か



前列右より5人目中村敏之先生

され、年齢を感じました。

懇親宴会では終始昔ばなしに花が咲き、時の経つのも忘れ、楽しい一時となりました。

今回参加出来なかった方々のためにも、次回は3年以内には新幹事のもと行くことを確認しつつ、次回の再会を誓い散会しました。

生徒一人ひとりの自己実現を支援する進路指導

進路指導部長 山崎幸子

生徒一人ひとりが人生設計を立て、卒業後の進路目標のために日々研鑽を積む、これが進路指導部の目指していることです。この目標達成に少しでも近づくため、進路指導部では、PTAの方々や同窓会の皆様の力をお借りして様々な企画を行っております。

6月には、「先輩と語る会」を実施し、各方面での先輩方の学生生活、就職の現状をお聞きしました。7月には「職業人講話」を実施し、PTAや同窓会の皆様方から多大のご支援をいただき、様々な職業についてその具体的な内容について学ぶ機会を設けることができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。8月には進路ガイダンスを実施し、希望の学部学科について、大学や専門学校の先生方から直接お話を伺いました。12月には2年生の体験学習（模擬授業や就業体験）1年生の上級学校訪問が行われました。

今年度はさらに、伏木地区人材育成部会のお世話により、1年生を対象とした「伏木地区企業訪問」を企画し、伏木海陸運送を始め、伏木地区の優良企業について理解を深め、働くことの意義を学ばせていただきました。生徒に未来へ

平成15年度 進路別現役合格者数（延べ数）

	人数	主な進路先
国公立大学	6名	富山・岡山・都留文科・鳥取
私立大学	65名	関西外語・関西・京都産業・愛知学泉・桜花学園・大阪学院・東海・金沢工業・金沢星陵・金沢学院・北陸・金城・仁愛・名古屋商科・富山国際・福井工業 など
国公立短大	1名	高岡短期
私立短大	52名	華頂・関西外語・岐阜医療技術・北陸学院・富山 など
文部省管轄外	4名	北陸職能大学校
専門学校	52名	富山医療福祉・厚生連高岡看護・高岡医師会看護・富山歯科・北里大学保健衛生・富山情報ビジネス・富山外語 など
就職	15名	国家公務員三種（税務）・警察官B・射水消防署・伏木海陸運送株・隼富山ドライブ・十篠集成材株 など

の希望を持たせるため、同窓会の方々の今後いっそうのご協力をよろしくお願いいたします。

八北
回 卒高
林 秀治

伏木海陸運送株
代表取締役

三北
回 卒高
山下和夫

山産商会
代表

八北
回 卒高
松長一雄

松長社会保険労務士事務所
所長

九北
回 卒高
田中清

北陸菱商株
代表取締役

九北
回 卒高
布野彰一

東光産業株
代表取締役

十伏
回 卒高
戸澤克行

(有)日光商事
代表

十三伏
回 卒高
高井逸朗

高建設株
代表取締役

◆◆◆◆ 平成16年度部活動の記録 ◆◆◆◆

〈体操部〉		富山県高等学校総合体育大会 北信越大会出場	
女子団体総合	第2位	優勝	藤田 純子(3年)
女子個人総合	優勝	各優勝	藤田 純子(3年)
種目別(跳馬/段違平行棒/ゆか)			
富山県民体育大会			
女子個人総合	第1位		藤田 純子(3年)
女子種目別(ゆか/段違平行棒/平均台)	各優勝		藤田 純子(3年)
男子種目別(ゆか)	第2位		畠山 直聴(1年)
富山県高等学校新人大会			
女子種目別(ゆか)	優勝		櫻井 千嘉(2年)
女子個人総合	第2位		櫻井 千嘉(2年)
男子個人総合	第2位		畠山 直聴(1年)
〈サッカー部〉		富山県高等学校総合体育大会 第3位	
U-18富山県サッカーリーグ2004			
カテゴリーT3C フェアプレイ賞(伏木マリノス)			
〈陸上部〉		富山県高等学校総合体育大会 北信越大会出場	
ハンマー投げ	第2位		波辺 勇佑(3年)
女子3000m競歩	第5位		伊東 由貴(2年)
富山県高等学校新人大会			
女子4000m	第3位		加藤 千明(2年)
女子3000m競歩	第3位		伊東 由貴(2年)
	第6位		松本 亜樹(1年)
	第6位		寺西 祐慶(1年)
	第8位		村本 惠理(1年)
男子やり投げ			全国高文祭出場
女子やり投げ			最優秀賞
〈琴部〉		富山県高校文化連盟邦楽演奏会 邦楽部門	
〈吹奏楽部〉		全日本吹奏楽コンクール富山県大会 銀賞	
		中部日本吹奏楽コンクール富山県大会 銀賞	
〈テニス部〉		北信越高校総体出場 男子ダブルス	
		藤牧 範行(3年)	組
		野 亮一(1年)	
富山県ジュニアソフトテニス選手権大会 個人戦	優勝	野 亮一(1年)	
富山県ジュニアソフトテニス選手権大会 個人戦	優勝	川崎 洋一(1年)	
〈書道部〉		富山県青少年美術展 書の部 入選 石橋茉莉子(3年)	
〈美術部〉		富山県青少年美術展 絵画の部 佳作 松本 史永(2年)	
〈その他〉		富山県高等学校総合体育大会 北信越大会出場	
女子個人形	第2位		中村 美貴(2年)
女子個人組手	第3位		中村 美貴(2年)
富山県高等学校新人大会	優勝		秋季 国体出場
女子個人形			中村 美貴(2年)

『国体に出場して』

2年 中村 美貴

私には遠い夢だと思っていた国民体育大会出場。その夢が高校2年の秋に現実になるなんて思ってもみなかったので、とても驚き、嬉しく思いました。

大会までの約1ヶ月半は、練習にほとんど時間をあて、一生懸命に練習しました。

大会が近くなるにつれ、満足のいく形に仕上がってきたのと同時に、今まで感じたことのない緊張感が私に襲いかかりました。私は大会前日には熱を出してしまい、最悪なコンディションで試合の日を迎えることになってしまいました。

大会当日の試合結果は、自分の思うようにはいかなくて、とても残念でした。大会で良い結果を出せないということは、まだまだ自分に甘かったという証拠だと思うので、これからの練習では、自分の心と体に強さと忍耐力をつけて、それらを鍛えて、自分をもっと大きく成長させていきたいと思います。

平成16年度全国高等学校総合体育大会



山下和夫前会長『自治功労賞』受賞!

高岡市より、地方自治や産業経済、農林漁業などの各分野で市勢発展に貢献したとして、11月2日、山下和夫前会長に自治功労賞が表彰されました。同窓会並びに郷土に対する日頃のご尽力が報われたのだと思います。心からお祝いと感謝の意を申し上げます。

十四回卒 高 代表取締役 上野宏芳	十五回卒 高 代表取締役 中山勝儀	十五回卒 高 代表 立野誠一	十五回卒 高 代表 山下利一	十六回卒 高 代表取締役 山孝之	十六回卒 高 代表取締役 牧亨	十七回卒 高 代表取締役 神島高志
十七回卒 高 代表取締役 嶋安夫	十九回卒 高 代表取締役 山口正志	二十七回卒 高 代表取締役 小泉哲二	二十七回卒 高 取締役 島田博司	二十七回卒 高 院長 井上人士也	三十四回卒 高 代表取締役 数田昭久	四十回卒 高 代表取締役 宮越一郎

◆とやま塾 ～とやまの先輩招へい事業～

(北日本新聞社提供/11月7日)

五輪などで活躍した陸上選手、大森盛一さん(佐川急便)が11月6日、母校の伏木高校グラウンドで、運動部にトレーニング方法を指導した。

県教委の「とやま塾一とやまの先輩招へい事業」の一環。サッカーや野球など同校の運動部員約百人と、伏木中学校陸上部員が参加した。大森さんは、バルセロナとアトランタの五輪に出場。アトランタでは1600mリレーで5位入賞を果たしている。

どのスポーツにも共通する「走る」「跳ぶ」「投げる」の基本を身につけてもらおうと、ハードルやボールを使ったトレーニングを紹介。片足でハードルを跳ぶ運動などで体のバランスの取り方などを教えた。「運動能力を上達させるためには、常にどう体を動かせばいいか意識してほしい」とアドバイスし、練習を見守った。

参加した伏木高陸上部の泉広志主将(2年)は「ためになった。冬場のトレーニングに取り入れたい」と話していた。



◆国際交流の風

国際部主任 村中秀一

第8回米国姉妹校訪問研修



8月21日(土)から30日(月)まで9泊10日間、生徒18名(男子3名・女子15名)と引率教員2名でアメリカの姉妹校である

フォートウエイン市のビショップ・ルアーズ高校へ語学研修に行ってきた。研修の主なる目的である6泊7日のホームステイを生徒たちはもちろんのこと引率の我々も体験し、ホストファミリーの方々にはたいへんお世話になりました。事前学習では、本校のALTの先生の指導の下、英会話の練習にかなりの時間を割いたわけですが、現地での日常生活はどんなものだったでしょうか。

8月26日(金)に行われた全校集会での交流会では、生徒一人ひとりがマイクを片手に(中にはもう片手にメモ用紙を)得意な英語で自己紹介や感想を述べる機会や、ホストファミリーの生徒らとともに「帆柱おこし」を踊ったりして交流を深めました。

ビショップ・ルアーズ高校での語学研修およびホームステイを終え、翌日、あこがれのニューヨークへと向かったわけですが、航空機の空調設備不良のために移動に1日を要しました。一夜明けて、「自由の女神像」「グランドゼロ」「エンパイヤーステートビル」をはじめ、いろいろなショッ

ピングモールにも行くことができ、生徒たちは、目に見えるおみやげはもちろんのこと、言葉では言い尽くせないほどのおみやげ話や思い出を胸にアメリカを後にし、大好きな日本に無事帰ってきました。

国際交流科として、新たにスタートする伏木高等学校の特色の一つとしての「姉妹校訪問研修」が今後とも継続、発展できますようご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

ロシアハーモニー校親善訪問団 来校・ホームステイ

9月29日(水)から10月8日(金)まで、生徒5名(男子2名・女子3名)と引率教員1名の計6名からなる親善団一行が本校を訪れ、文化祭、五箇山観光、PTA国際理解教育推進委員会主催の交流会(おにぎり作り体験と伝統工芸体験)をはじめとする行事に参加し、本校のロシア語選択者のみならず、多数の生徒たちと交流を深め、別れを惜しみながら伏木港よりウラジオストクへ向けて帰国しました。ホストファミリーとしてお世話いただきましたの方々には心より感謝いたします。

地域性を生かした本事業のため、今後とも多数の方々のご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



INFORMATION

- ①寄稿の件 本会報に掲載する原稿を募集致します。(学生時代の記憶に残る体験、経験談、思い出話等)皆様のご協力を頂き、より充実した紙面を目指していきたいと思っております。なお、原稿は1,000字以内でお願いします。
- ②会報広告の件 会報広告を募ります。皆様方のご協力をお願いします。
- ③如意ヶ丘グリーン会参加者募集 毎年4月第二土曜日
- ④学校のホームページと同窓会のメールアドレスです。ご利用下さい。
ホームページ <http://www.tym.ed.jp/sc354/> メールアドレス dousoukai@fushiki-h.tym.ed.jp
- ⑤来年度の総会を8月14日(土)に予定しています。

受付窓口 富山県立伏木高等学校 事務局 TEL0766-44-1514 FAX0766-44-1707

編集後記

会報第10号をお届けします。

今回の寄稿欄には、澤田氏をはじめ、同窓会の方々には様々なお話を語っていただき、感謝申し上げます。

伏木高校は来年度から「国際交流科」として新しくなります。新たな歴史を育てるための基金、ご協力よろしくお願い致します。

皆さまからのお便りを、心よりお待ちしております。